

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

| | |
|-------------------|-----------------------------------|
| 平成 29 年 11 月 20 日 | |
| 所属部局・職 | アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ地域研究専攻博士課程 4 回 |
| 氏名 | 横塚 彩 |

| |
|--|
| 1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域) |
| 沖縄県八重山郡竹富町 |
| 2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験) |
| 西表島実習 |
| 3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで) |
| 平成 29 年 11 月 11 日～平成 29 年 11 月 15 日 |
| 4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏) |
| 琉球大学熱帯生物圏研究センター、梶田忠教授 |
| 5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由) |
| 写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。 |
| 今回の実習では、日本の中でも生物多様性が高い、西表島での環境、生態系に関する知識を得た。具体的には、マングローブ林の散策、サンゴ礁の観察、固有種であるイリオモテヤマネコに対する保全対策に関する講義や、対策箇所の視察などである。私は特に、個体数 100-150 頭ともいわれているイリオモテヤマネコの保全に関するとりくみについて関心があったので、実習中に研究者と環境省の職員の方からお話を伺うことができ、非常に充実した実習になった。 |
| 実習日程 11 日 西表島入島 12 日 マングローブ林散策、カヤック実習、浦内川遊覧(琉球大学：梶田先生) 13 日 サンゴ礁に関する講義、シュノーケリングによるサンゴ礁の観察 (琉球大：成瀬先生、酒井先生、北野研究員) 14 日 イリオモテヤマネコに関する講義、西表野生保護センター訪問 (琉球大学：伊澤先生、環境省：杉本さん) 15 日 離島 |
| マングローブ林の散策では、梶田先生にレクチャーをうけながら植生を観察した。マングローブ林は以前にベトナムのカンザー国立公園でも訪れたことがあったが、その時は船上からの観察のみだったので、今回はマングローブ林を散策することで、どのような土壌でマングローブ林が形成されるのか実際に手や足で感じることができた。浦内川の遊覧ではこの地域の歴史とともに、マングローブ林に多く植生しているヤエヤマヒルギ、オヒルギ、メヒルギの生態などもガイドの方から聞くことができた。 |
| 2 日目にサンゴ礁の講義を受けた後、海に潜ってサンゴ礁を観察した。シュノーケリングをするのは初めてだったが、海中の青さや、海の中に広がるサンゴ礁、魚を確認した。海や川に入る機会があまりないので、意識したことがなかったが、地上のみならず海の中にも非常にたくさんの生物が住んでいることを目にして、すごく感動した。 |
| 3 日目は、イリオモテヤマネコに関する実習を行った。伊澤先生からイリオモテヤマネコの基本的な生態と、西表島での保護政策などをレクチャーしていただいたあと、カメラトラップの映像を確認したり、フンから何を食べているのか観察を行った。イリオモテヤマネコの保護対策として重要なのは、交通事故(ロードキル)減少で、現在西表島では、事故対策として、道路の側道に柵を設置して、イリオモテヤマネコが道路に出ないようにしたり、大きな道路の下に野生動物が通るトンネルをつくったりしていた。こういった保護対策は沖縄県の出資で行われているとのことで、研究者と県との密な関係が、希少な野生動物の保全につながるのだと思った。西表野生生物保護センターでは、住民から寄せられたイリオモテヤマネコや、外来種の目撃情報や事故現場を掲示した地図があった。小・中学生が描いた野生動物保護に関する絵画展もあり、この地域では、保護動物に対する環境教育が盛んで、住民のヤマネコ保全に対する理解も非常に高いことが伺えた。 |
| 西表島を歩いていると、人よりもカニや、トカゲ、カンムリワシなど、人以外の生物を見かけることの方が多かったように思う。それくらい西表島は生物多様性の高い場所であり、また住民と研究者、自治体が連携して、保護活動も熱心に行われている地域であると実習を通して知ることができた。 |

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



ヤエヤマヒルギは、ゆみなりの呼吸根をのぼしているのが特徴的だった。マングローブ林の散策で多く目にしたヒルギの1つ



雨のなかのシュノーケリングではあったが、海の中はあたたかく、陸とは別の青い世界が広がっていた



イリオモテヤマネコが道路に出ることを防ぐフェンス。特に事故の多い道路に約400mの長さで設置されている。



西表野生生物保護センターのエントランスを抜けるとすぐに目に入る島の地図。イリオモテヤマネコや外来種の目撃情報、事故情報など、町民から寄せられた情報を元に地図にその詳細を貼っている。

6. その他 (特記事項など)

琉球大学熱帯生物圏研究センターの先生方、研究員のみなさまに大変お世話になりました。とても充実した実りある実習になりました。ありがとうございました。